



西遊記
法蘭西

ル 3
474
4





京西石垣
上田仙吉
郡四條下

門
喜
3
4
4

西遊記卷之四

篤實

倭後國とて色々時百姓とて人々本巻一男二人ぬと道連に
 成り山の名里の風俗とて民言のそけいけいけに我野腹成
 一方頂巾紙敷とてききと怪しきといふなる人おていせ
 よういゆく人ゆきあやと問ふに此方け醫者なるが医術
 妙なり為小徳園に在居するなりと答へしゆが扱と教と
 此西人我等が怪異と向ふれ山の奥なるを辨ぐしきおの如
 房の奇妙は難病ありて果てて年久成りなきあつては後
 つふよといふゆきまきあつてつくと醫療するごと

西遊記 卷之四



扱とあつらふ事なり此等如の誠をねむるに佛の賜
 けとまらてまゝのまゝに違ひのあらぬまゝのまゝに
 るら盗賊のりばらる事なく諸子たつとくらふに連
 引う給へる重犯長に成奪る給ふしめはははは
 かならず楚忽の始らるるまゝのまゝにひらるるま
 てを付くまゝのまゝに事れ給へるにれより法を
 ぐうにせむまゝのまゝに居るにれ或はあまの給
 のあまにまゝのまゝに一年のまゝのまゝのまゝに
 醫心らまゝのまゝにさつ同のいうなる用をまゝの
 ようにまゝのまゝにまゝのまゝのまゝのまゝのまゝに

するに師のまゝのまゝにまゝのまゝのまゝのまゝに
 のまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝに
 夢ならまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝに
 リとらまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝに
 のまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝに
 りつてまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝに
 を次れ日彼のまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝに
 てれ給へる扱とあつらふ事なり此等如の誠をねむ
 治にまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝに
 まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝに

てあひ常侍の人ともある事候れをそれ者の後達ひより
 始りてお名も人形もすゆつが弘法大師入来らせのまなり
 とれ一村の傳判のさき波一の糸もなるうとて達
 ろく一とんもめらびひんとも命もすりて浄土恩一言の
 由れを中さるる知の中を安らびとて達もなるうとて
 寺もくともあつゆと弘法大師候由れ中ゆつとて
 極老くまのひひ一之老のありて見次の本經に叶ひ作
 ろうとて深美歎にあらりもたう平と候とてさうと
 てういながき免てゆり中りぬゆとて老なうとて
 里に餘もる流山候いともりくもるあるとて遠おの民の

篤実なる事感するをと候あまうあり

仙人

おほもそれ人皆賢徳の事候すとも長生薬得んと候
 せば深山にへう飲食と断ちて慮及せぬと候と候と候
 と除きて性命とまの財をゆれのひとりとて二こる處に
 壽を保つて一當時を務治山に候これ仙人なるもくとて
 宿藏とらふこととて成生とて年歳を苦勞とつひし
 乃事ありて友縁と捨て世縁のめもひ山奥に隠れそり
 まんへびとて後十年度く務治山に候うといふと親屬の
 一とよの甥の傳判成をまるといふ人をもくくと務治のひり

園球郡北人吉の城下より十里あり奥に生る木々の
 木ありけ正に吉村也昔湯とよふ百姓あり年六十斗は時家業
 不^ふ如^こ意^いあ^く世^せの中^{ちゆう}と^とあ^あく^くふと^と仙^{せん}洲^{しゆう}に^に志^しし^しけ^け生^{せい}る^る木
 の^の山^{さん}奥^{おく}に^に入^いる^る城^{じやう}下^げだ^だふ^ふ深^{しん}山^{さん}の^の如^{ごと}く^く少^{すこ}く^く他^た亦^{また}よ^よう^う足^たる^るふ
 他^た境^{けい}の^の正^{ただ}に^に地^ちを^をう^うり^り又^{また}と^と也^やよ^よう^う十^{じゆ}里^りと^とれ^れく^く彼^かに^に人^{ひと}倫^{りん}と^と構^{かま}
 なる^{なる}地^ちを^をう^うり^りと^とれ^れく^く深^{しん}山^{さん}に^に入^いる^る飲^ん食^{じき}を^を本^{ほん}の^の實^{じつ}を^をと^と
 と^と食^{じき}せ^せし^し只^{ただ}を^を中^{ちゆう}と^と居^いる^るく^くり^りし^しあ^あく^くあ^ある^るに^に里^りふ^ふか^かく^く
 線^{せん}入^い城^{じやう}を^をう^うつ^つく^くと^とく^くつ^つく^く少^{すこ}く^くは^は成^なる^る暖^{だん}言^{ごん}を^を以^もて^て六^{ろく}脱^{だつ}袴^{かほ}を^を裸^{はだか}
 佛^{ぶつ}に^に成^なる^るを^を年^{ねん}に^に一^{いつ}交^{かう}つ^つ衣^い袴^{かほ}の^の為^{ため}に^に里^りに^にお^おく^くく^くを^を多^たく^く以^もて^て
 身^みう^うて^て仙^{せん}洲^{しゆう}と^と遊^{ゆう}び^びに^に成^なる^る終^{しゆう}せ^せし^し少^{すこ}く^くも^も衣^い袴^{かほ}と^とく^くて^て居^いる^る

山^{さん}に^に入^いり^りて^て居^いる^る球^{きゆう}麻^まは^は推^おび^びく^く年^{ねん}ま^まぐ^ぐ凡^{ぼん}四^し十^{じゆ}年^{ねん}餘^{あま}と^とり^り
 リ^り是^こと^とを^を本^{ほん}と^と不^ふ之^し後^ご法^{ぽう}仙^{せん}洲^{しゆう}ま^まく^く清^{せい}小^{せう}百^{ひやく}歳^{さい}に^に歸^{かへ}る^る以^もて^て身^み
 少^{すこ}く^く飛^とぶ^ぶく^く九^く外^{がい}に^にけ^け二^に仙^{せん}人^{じん}を^をう^うり^り申^{まを}玉^{ぎよ}造^{ぞう}少^{すこ}く^くを^を生^{せい}入^いて^て去^さ
 今^{いま}本^{ほん}之^の京^{きやう}北^{きた}白^{はく}河^がの^の山^{さん}中^{ちゆう}より^{より}白^{はく}鹿^か先生^{せんせい}あり^りし^し如^{ごと}く^く今^{いま}は^は若^わ狷^{けん}也^{なり}
 山^{さん}中^{ちゆう}に^に移^{うつ}り^りて^てし^し仙^{せん}洲^{しゆう}の^の事^{こと}と^と居^いる^るく^くの^の事^{こと}も^も傳^たへ^へず^ず廣^{ひろ}
 く^く天下^{てんか}を^を移^{うつ}り^りて^て人^{ひと}と^と交^{かう}り^りき^き
 孝^{こう}行^{ぎやう}
 孝^{こう}子^こを^を帝^{てい}八^{はち}弟^{てい}妹^{めい}百^{ひやく}を^を産^うむ^むる^る産^うむ^むる^る厚^{こう}田^{でん}原^{げん}田^{でん}村^{むら}と^とり^り入^い新^{しん}
 法^{ぽう}百^{ひやく}姓^{せい}法^{ぽう}を^を産^うむ^むる^る子^こな^なり^りて^て高^{かう}八^{はち}高^{かう}年^{ねん}十^{じゆ}五^ごを^をま^まん^{まん}毎^{まい}十^{じゆ}或^ごを^を
 たり^{たり}幼^{ちゆう}少^{せう}の^の時^{とき}より^{より}あ^あく^くく^くと^と考^{かう}へ^へか^かし^して^て生^{せい}む^むる^る身^み業^{ぎやう}如^{ごと}く^くに

母親の事切りそめあせりするもなめりしと云ふ所の九月
 兄を島に九才妹万巻ハ七のといひて母産後いまだ日致を
 とぞまじふ時流法事なまじく橋入のまを向くと働く血
 の乃の痛じさうれさうそむさうりりくそむさうめらと
 さうれゆさうす今年も六十年の居座ふ付せんくお痛
 ひははめり起りて人自れあせさうさうふあさうの子とと
 幼少なるもお母法側ふ付さしむさうの事つさひより
 食物のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 なきやうにさうさう病中のさうさうお母よん法はめりせ又
 と腹さうさうあめりさうさうさうさうさうさうさうさうさう



西遊記 卷之七

事なうてもあひくしれなきんよくあひくしそまこしと母
の事なうてもあひくしれなきんよくあひくしそまこしと母
り乃田島なるかを所ハ初かなめり耕作の事なうてもあひくし
る為なれしと婦よりひひくめてなまけけせりる婦とま
あひくしあひくしとつくしと考案見にれとすすを所ハと又
方子くゆりそりそあひくし母のそまこし人刻りそひひとゆり
教をそまこし母の事なうてもあひくしと又我田比の中すす
日にありし事なうてもあひくしとあひくしと又我田比の中すす
しと母にそまこしとあひくしとあひくしとあひくしとあひくし
とまこしとあひくしとあひくしとあひくしとあひくしとあひくし

屋敷の敷屋の中しとあひくしとあひくしとあひくしとあひくし
を所ハ敷屋の所へあひくしとあひくしとあひくしとあひくし
る所ハ敷屋とくすすもあひくしとあひくしとあひくしとあひくし
へくすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすす
あひくしとあひくしとあひくしとあひくしとあひくしとあひくし
母とあひくしとあひくしとあひくしとあひくしとあひくしとあひくし
眠る所ハ敷屋の子を我耳と母の教へよせとあひくしとあひくし
ひひくしとあひくしとあひくしとあひくしとあひくしとあひくし
ひ起す所ハ敷屋の中しとあひくしとあひくしとあひくしとあひくし
又あひくしとあひくしとあひくしとあひくしとあひくしとあひくし

に入らば抱きてあはれきり又母をふあはれきり
 し起りてあはれきりむ時少くは母を打より宵中とさすり身はれ付
 らうとて茶碗の中にあはれきり母小飲せ流しうとてあはれきり
 守りてあはれきりうとてあはれきり少くは母を打より宵中とさすり
 身はれきりあはれきりあはれきりあはれきり乃者をとちめり流し
 て介抱しとてあはれきり母のめり流しとてあはれきりあはれきり
 食し宛中とはあはれきりあはれきりあはれきりあはれきりあはれきり
 月日流しとてあはれきりあはれきりあはれきりあはれきりあはれきり
 りぬあはれきりあはれきりあはれきりあはれきりあはれきりあはれきり
 さにあはれきりあはれきりあはれきりあはれきりあはれきりあはれきり

了此子共あはれきりあはれきりあはれきりあはれきりあはれきり
 是とぞるまはれきりあはれきりあはれきりあはれきりあはれきり
 母の所あはれきりあはれきりあはれきりあはれきりあはれきり
 ころころとあはれきりあはれきりあはれきりあはれきりあはれきり
 農のあはれきりあはれきりあはれきりあはれきりあはれきりあはれきり
 又此小児あはれきりあはれきりあはれきりあはれきりあはれきり
 て通しとあはれきりあはれきりあはれきりあはれきりあはれきり
 村のをあはれきりあはれきりあはれきりあはれきりあはれきり
 多しとあはれきりあはれきりあはれきりあはれきりあはれきり
 是らあはれきりあはれきりあはれきりあはれきりあはれきりあはれきり

才彦の尸首すこもお遠るればそ夜を過しの白蛇
と御集めては事成すれとて小孝のいりお遠る
りしう望日結氏自身ちる八の家をゆるとて
成し給へ又を父母の縁のともを成するハさうけさ
し樂なるやふお解ておちへんやうしおちも新持
おねのやいほひいとて見をるハア一お武す
懐もとる巻一お入メとておひけるもま
ころいひやおちる居りともあかりありこと
んこいしやうけられておさあがりおぬものといささ
しそを西やうびきおひけるもおひの百は

御新すていれをせちるハういよとていひこ
へじこれが孝みへのゆやうびなりとてをのんく
さうつひお免ういひるハ一涙のうぬも
まメとあえられしおをむやくんまやうを
うさあさうろてうくおひくおちれくれとの
とあえられういひるのうぬせんうさういと
てそのやうり入の男女しめいドておちるハが
ゆとてうらびといひておまことうれぬとの
たひけんせしおまことうれぬとの
かくまうく人まか免あつとも孝りとおま

とそいそを川といふ人の中と遊鹿の儀の儀之の結の下段人
一が又遊ぶまきえありしを所遊らまき一人なり故をくのゆ
この人こそ遊又雅の事こののまは他人のうらまひもあふ
一 他人等のことこそ月夜にわらふと雅すま事あわらむ
一 松りあふぐく身付やり又帯をを雅し葉山とつくつう
本と刻してま鹿の形さうつ一まは熟茶山ありけるさなる
と小山ありは戯なり愛さなりはまは清水あり大仏ありけ
あふらハ遊鹿さうり小形なりは中央なりハ大肉なりさむと
ふるは一作りてゆらふに遊乙女をく小一あふ一て遊
まるとあふむのまふことく一ぬるとままのぬら

いやりぬ一又あふれは川に遊くま一ハあふ世の中ハ
たのしみさうりまあふもあふ遊まふもあふこつづくま
の國こそあまおもしろいさうりてさうりまは山山風の風
こむとくまが又あふ事あわらふと遊まてまへ一まは川を
けて遊まきまをまて身あまらふと又ゆ一ゆく遊くまが
ふの人のあふることハ一はあふ遊まも多るゆま又世
の中遊ま人も遊まのまはあふはまがまて井の中一
まはあふらハ遊まきまに人のあふまはまへ一まはあふは
あはせむ人をまま遊まきまはあふせんままらうまこまは
遊人のまままも遊まきままままがまはまま

阿蘇山

今一ハ阿蘇の大文司のりふ一とく一してわするやハ
 へのゆんとはびせしふ金する陽より陽のまがし一わし一
 ありハありふりてあつてやまの御取う一なりん事一や
 し遊ひわづすし一をびわハきく一し成り来て今より
 へど道す一とくえんもやいるとハ山の水ハ禁の的ふ
 里ふ入りてあまのくとわして山の水をせしり登るまの
 けのハなれと細くけし一絶頂より降り付ハ日既よれとてぬ
 室氣滋多す時一あま一とと人なるのけとねるるあ
 なる新氣ありあむしちのてをひさるるうりふて床とて

今一は肉入りとむるむるをまにやうけめてやもい
 う野操るべき程なるふねあし一れゆらるるもあすどく一
 山人像キハ世を寂しく一方に夜ゆくまを固もあはず又
 るあつりも後まをて地影ハ山細くせよあまを地とあ
 彼あけぬまハきの入れをひ一ハハとありて山ぐく引渡せる
 あり細目ハ細いと花やうり夜まらまひ一と引くてむのさめり
 しく一と出でゆらとちうのち大なる穴ありを引さうか
 中のみくハ水のそま法性清と名付く教合云りおるり
 みるんよと由ハ法性清るりキとハハのこのこ一
 覆ひ付く火おてままのたびキ一従事只今ハ山と人

ち公地之そまのひハ筆は公地くすべくもあはれは志グーん
 ことと我身も山とこそはくげまらべさ公地してあくこと
 津くーくー少ートまハ大なる雲あり肉は穢あり壽長徳
 公山と新しきをを徳こーの帝よりむくーけ山あり雲長
 事と徳くは多ひては又公地をそ山と新ド多ひるをそ長と
 徳と換ーくそ人かひくそ徳とあまわさむかーハ長と
 しく下つことまは徳多くありーとくそまて徳徳ハ海濱
 のこくくホして徳徳のそまて白くそそハ徳令くそ徳のめく
 ホーそ公地ある事さー志バートまハ公地へるありそまめ
 て世界の果さあり所の公地ふくそ雲徳くけあり所の公地

公地あり公地とくそまの眺るハ四方山よへそまけは徳
 の山八分八分山は方と徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と
 徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と
 るは山の方けやくと徳徳とく幅計三里やぐくホーそ平
 田あり公地の方のそまーそまそまの徳の徳の徳の徳の徳の
 て川流まそま徳くそまの世ハけ地湖とそ徳山ハくそまの中
 の徳ありーく徳徳の徳徳ひーけ徳の徳ありー時徳の方の山と
 切徳徳してそま徳ー湖と干て田地とそまらー徳け地徳
 すはつらくそま湖ありー事徳徳ありーとそま又人徳
 の古今もまそま徳徳そまら山とりりやりの事徳あれそ

世末代の人よまげがくく後世の人民の存苦と救はむ志
 ありけり我医術とけ人も又世よかきて医業とけりするも
 者よりくく志とけりするも救とけりして志実くくすま
 是まにとけりする一医業のまふくすす神皇の神の小
 徳と人の徳徳とけりも坊にれ佛道と弘通くく人徳長
 乃よ通導くも武士のまふく志願してを國とおんく人氏と
 志徳せくくむもも人の志願と出精して家と家く一親徳
 とやまんく出入のまふくじも職人のまふく初めて志内
 とやまも皆のまふくもにとけりくくくべくく志内くく
 志人まふくのかくく小けて救とけりくくくくくく志内

ちあつてまふくく人よ属する人徳志するのありいなる人
 も人のまふく事ハにまふくく付てあるものゆへは是と仁斯至と
 かいふありまふくくこれまふくく小能ていふくくも救ハ志内くく
 乃ぞ備徳小も又君子思不其徳とも教むひく我方のま
 よりおのまふくハ志すぬくまふくあり世このくくく仁と
 我まふくく仁匹まふくくくくくくくく仁と志人と志す
 志ハ我をよりおのらまふくく志日ハ志人ともまふくくべく
 志まふくく事あるまふくくも大徳先生もかくくまふくくく
 上よ付て祝せまふくく入るまふくくくくくくくくくくく
 も人の徳長と志実小志人と志せむ人まふくくく志内くくく

西遊記

...

て家室と名もあつる武士も思はれぬと志して勤むことせ
忠烈として深も増し位もすじ高僕も先祖よりの家のお
家属のお一類親属のお小もと志してま業以て精進すことせ
依りて利徳とゆ家室も身も安し今この世の権威は
る一医ハ美脚と懸し人の上席は座するものと志し
まう武士ハ縁と滑し位と昇らん縁と滑し奉公と
し高僕ハ身一分の業曜を承とせりま今世は金銀
幣仁のたしまふふれまふと志し高の教し世にふ
西とくくわめて仁とくもひ申べつとくバ座
歎けし今より志とあくま人入るをえく

の事と候ふすべしとく退きま

奴僕

口の通乃 養父あつるまハ一生買切まホなる奴僕とま
くもそりいりる事をも同ま米らみ苗まおけ通玉の中
よりお言ぬ僕のお親なる者へ地一儀米を俵斗とあへくこ
一生つはよ買切る事あり山中の者ハ振る地へ出る事
目このこととして親なるもの子の出世するれやうま
たる者も候すことせりありかくのごとくして一生買切り
なる奴僕ハ事と人お殺してもま主人のむ但しとく親
しりま言のうみりま事なり男女ともふけぬりのま

月こおはのりゆくそまゆ人なまをハらくる事ふるりて百姓
 ころそのいも皆く於金く出るやうよろり 田地と耕す事
 と酒ぬまししすり人田地年と小荒ま於金の地成ハ月とま
 るりせけん月成ハ國勢中も及ひぬ輝れ法報もむりしといひの
 外にき料ふるりてに働ハあくれ十分一ふも及まきりあぐの
 ことく野原の礼儀下より礼を来まるゆ人おのつらう中人
 といふもこそ風うつと及ひく礼を兼取の風を為くるまき
 るらんや何ふおも君居れ礼を教をよそ 櫻海の櫻梅とも取
 ころふあうまきまを風後のなくころまきハあう 眼のむ人報
 らん先生華陸よのまき 時後ふるんゆゆ衣の付りてて人むつ

くらぬ僕もこそと強すとみて大お裁む 代め初も来
 風ハ礼をのころ 正しくハかくはくく 義と知らんのかうて
 むりくやろびハすぬどまものともくもまきと強るまき くだ
 吹来るどハま後の礼をまきとみまうハ かくて強来る者らんハ
 先かきてあう 一人と月成し 一人と月成し 一人と月成し 一人と月成し
 報のころくあう 一人と月成し 一人と月成し 一人と月成し 一人と月成し
 ハ報水の報成せまき 一人と月成し 一人と月成し 一人と月成し 一人と月成し
 てハ日白道のま後の報成さうやまき 一人と月成し 一人と月成し 一人と月成し 一人と月成し
 介ても甲列と成のまき かくのまき かくのまき かくのまき かくのまき
 一人と月成し 一人と月成し 一人と月成し 一人と月成し 一人と月成し 一人と月成し

西遊記

卷之四

二つハ田舎小の里跡まう

西遊記卷之四終

